

# 平成29年度クロノリ養殖概況

牧野賢治

育苗は10月中旬から始まった。水温は水産研究課鳴門庁舎の汲み上げ海水で平年並みであった。11月中旬から海中の栄養塩濃度の低下の影響で幼芽が伸長せず、育苗が困難な状況であった。11月下旬、コシノディスカス・ワイレシーの大量発生により漁場のDIN濃度が $2\mu\text{g-at/L}$ 以下となる中、本養殖が開始された。12月に入ってから栄養塩濃度が回復し、順調に生産が行われた結果、平成27年度以来の12月の共販が開催された。その後、水温が平年よりも $1\sim 1.5$  低く推移したが、ノリ生育に問題はなかった。2月上旬からユーカンピアが漁場で増殖傾向を示し、2月中旬には、DIN濃度が $1\mu\text{g-at/L}$ 以下の漁場がほとんどとなった。その影響で、2月の共販ではノリの色落ちが見られた。3月上旬には、栄養塩は回復したが、南東からの強風により、養殖施設の形状変化、破損などの被害があり、養殖生産できるノリ網枚数が減少した。その後、時化による出漁の減少、ノリの生育不良が原因で生産枚数も伸びなかった。

平成28、29年度の徳島県漁連共販数量の経月変化を図1に、年度別の共販数量と平均単価の推移を図2に示した。前年は、12月の生産量は0枚であったが、今年度は、12月から生産ができた。前年比については、1月が139%、2月が178%であり、前年度に比べて晩秋の水温降下が順調であり、水温も平年並みか $1\sim 1.5$  低かったので、生育不良をおこさなかったことが前年よりも生産量が多かった原因と考えられる。3月が44%、4月は209%であり、3月については、前述のとおり荒天による養殖施設被害の影響、4月が前年よりも多かったのは、前年ほどの色落ちがなかったからと考えられる(図1)。

平成29年度漁期の共販枚数は53,617千枚で、前年比

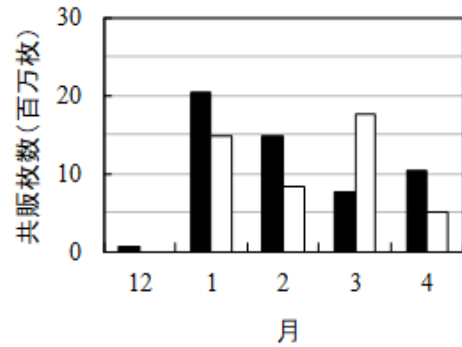


図1. 共販枚数の経月変化  
:平成29年度; :平成28年度

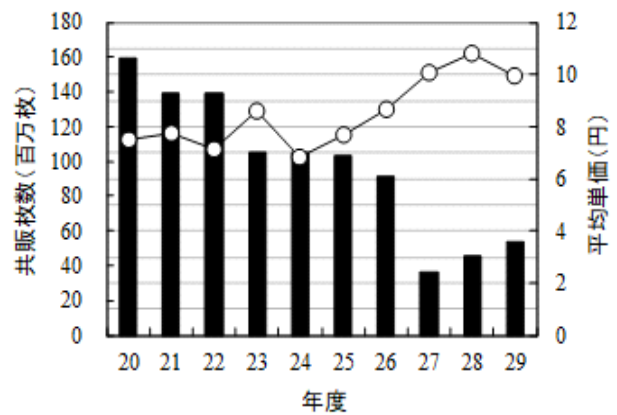


図2. 年度別共販枚数と平均単価の推移  
:共販枚数; :共販単価

118%であり、3月の南東からの強風がなければ、前年に比べてもっと増加していたと思われる。平均単価は、9.97円(前年比92.1%)であった(図2)。